

リハビリテーション学専修（作業療法学）履修モデル

【期待される能力・修了後の主な進路】

作業療法では、対象者の機能、生活や環境を客観的に評価し、分析する能力が重要である。さらに、障害者と家族とにある問題に対して、専門職として相談・調整、援助、教育などの支援を行う能力が必要であり期待される。また、他職種との連携や、職場での管理能力も重要である。

修了後には、保健・医療・福祉分野の施設において、他の職員の能力開発や計画にリーダーシップを発揮する指導者や管理者、さらに作業療法における教育・研究活動に従事できる。

2年次

【特別研究】

- リハビリテーション学特別研究Ⅰ(7)
リハビリテーション学特別研究Ⅱ(7)

1年次

【共通必修科目】

IPW論（専門職連携実践論）(2)

【共通選択科目】

- 保健医療福祉概論(2)
保健医療福祉研究法特論(2)
保健医療福祉学際英語(2)
地域ケア支援論(2)

【専門科目】

- 臨床リハビリテーション研究法(2)
機能適応支援系作業療法学特論(2)
生活環境支援系作業療法学特論(2)

【専門科目（修了要件外）】

- リハビリテーション教育学Ⅰ(2)
リハビリテーション教育学Ⅱ(2)

【学士課程において身につけておくことが望まれる能力】

作業療法の対象に対して実践される、再現性と妥当性が検証された介入と、個別特異性が許容された介入とを理解するための見識を保ち、作業療法と保健医療福祉領域の学術構築を行うための素養を備えていること。